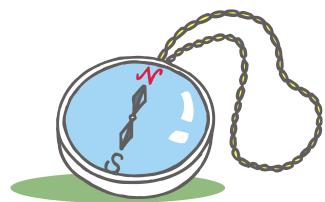


羅針盤



第 19 号 令和4年(2022年)9月26日(月)

◆ 時間のものさし

時間が過ぎるのは本当に早いもので、2学期がスタートして1か月の時間が過ぎ去りました。この1か月の間は、先週末に行われた文化祭の実施に向けて誰もが多くの時間を費やしてきたことでしょう。「時間を計るものさしは無数にあることを教えられました」と言ったのは、戦後の日本経済を安定させるために尽力されたトヨタ財団の元専務理事である林雄二郎（はやしゆうじろう）という人です。林雄二郎は、昭和40年の経済企画庁経済研究所の所長時代に、20年後の社会を予見して書いた「林リポート」と呼ばれるものを作成し、日本社会が発展していくためのガイドラインとして、5カ年という長期計画をつくりあげた人です。（同庁では2カ年計画を中期計画として扱っていて、5カ年計画は長期計画となります。）その彼が、文化人類学者として有名な梅棹忠夫（うめさおただお）さんから、「時間を計るものさしは無数にある。そのものさしを使って物事を考えることが大切である。」と教えられたことを振り返る中で、彼との議論の末に「今のうちにちゃんと考えておかなければ、人類は間もなく滅びる。5千万年ももてばいいほうだ。」と深刻そうな顔で答えたそうです。それまで経済企画庁で働き、3年先や5年先のことを見越して計画を立ててきた林さんにとって、その言葉は気が遠くなるような話だったそうです。真剣な眼差しで心配している梅棹さんの表情から、この人の持っている「時間のものさし」は我々とは違うと感じたそうです。「時間のものさし」は一つではなく、無数に存在するのだと感じたと林さんは話されていて、長い時間のものさしで見通すことができる人にとっては千年、二千年といったものさしで世の中の変化を見ることができ、梅棹さんにとっては5千万年後も「間もなく」やってくる感覚なのかと感銘を受け、彼の言葉は決して世迷言（よまよいごと）などではなく真実味をもった言葉であり、林さんにとっても、5千万年後の世界が空想上のものではなくなっていました。私たちも、一人ひとりがそれぞれの「時間のものさし」を持っていると思います。研ぎ澄まされた感性を培っていくことと併せて、「時間のものさし」といったものをしっかりと持っていることがとても大事なことだと思わずにはいられません。



◆ 失敗した場合、次の失敗を恐れることはない

精一杯の努力をしても、失敗をしてしまうことは誰にも経験のあることです。次なる失敗を恐れて実行に移すことができないことの方が大きな問題です。（マイナス）×（マイナス）はプラスになると考える人もいます。失敗ばかりでは困りますが、失敗の積み重ねから学んだことは必ずプラスになるということを意味しています。「私のやった仕事で本当に成功したのは、全体の1%にしか過ぎない。99%は失敗の連続であった」と本田技研工業創業者の本田宗一郎さんは言われました。ことわざには、「失敗は成功のもと」や「七転び八起き」などと言った言葉もあります。失敗を恐れていては、何もなしえることはできないでしょう。失敗があってこそ、成功への道が開けるものです。失敗をしないことに意を注ぐのではなく、失敗から多くのことを学ぶ人であってほしいと思います。

